



里へくだりて神となる

天下の大祭 諏訪大社御柱祭



前回2010年の御柱祭より 下社山出し木落し(右)、上社山出し川越し(左上)、上社建御柱(左下)、
(表紙写真)上社山出し木落し 巨大なV字の「メドデコ」は上社の御柱のシンボル ©諏訪地方観光連盟

山作り―神となる木を守る人々

今、信州諏訪地方は「御柱祭」(諏訪大社式年造営御柱大祭)に向け、熱い盛り上がりを見せています。

御柱祭は上社前宮・本宮、下社春宮・秋宮の4宮それぞれの境内に巨木を曳き建てる勇壮な祭りです。「五丈五尺(約17メートル)」を筆頭とする16本の巨木はすべてモミの木。上社は八ヶ岳の阿弥陀岳中腹にそびえる御小屋山(茅野市)の山林から、下社は下諏訪町郊外の東俣の山林から伐り出すのが伝統です。

モミが御用材にふさわしい大木に育つには少なくとも百数十年を要します。そのため御柱祭には古くから山を守り育てる人たちの存在が欠かせませんでした。ことに上社では、江戸時代に藩から役を任せられた8人が代々「山作り衆」として、今も御小屋山の手入れにあたっています。山作りは数代先を見据えた息の長い取り組み。現在8人の中に山の仕事を専門とする人はいませんが、それぞれが先祖から受け継いだ大役に大きな責任と誇りを持ち、地域の中心となって山を守っています。

しかし1959(昭和34)年の伊勢湾台風の被害はこのほか甚大で、数十年を経た今なお影響を及ぼしています。1998年の御柱祭以来、御小屋山でふさわしい木を見立てることがかなわず、他地区から御用材を得るという苦渋の選択を強いられてきたのです。

「今回は、8本すべてが辰野町の横川国有林のモミです。御小屋山から出せなかったのは残念ですが、多くの方々

のご協力で、伝統に沿った神聖な見立て、伐採を経て、みごとな御用材を調達できました」と語るのは、今年の御柱祭を運営する氏子の代表、諏訪大社大総代会議長の牛山純緒さん。山作り衆とともに見立て、伐採に携わり、8本の御用材の準備にあたってきました。伐採の際、白装束を身にまとい、最初に木に入れる「神斧」を振るうのは山作り衆の当番(代表者)の役割。伐採に使う伝統的な斧や鋸の手入れをするのも彼らの仕事です。祭りの折、高らかに唄われる木遣りに、「御小屋の山のモミの木は里へくだりて神となる」という一節があります。山を守り、御用材の育成や伐採に携わることは、山の神、諏訪の神に仕えることに他なりません。

「山作り衆の努力と地域の皆さんの協力で、今、御小屋山には立派なモミが育っています。次回こそきつと、地域の皆が胸に抱くそんな期待も、今回の祭りを熱く盛り上げるんじゃないでしょうか」と、牛山さん。

巨木を曳き建てる祭りは諏訪地域や諏訪大社ゆかりの神社に特有のもので、その由来は謎に包まれています。けれど、数百年という長い視点で森を育て、山を守る氏子衆の姿は、八ヶ岳山麓の自然豊かな地に根ざしてきた先祖たちが後世に永遠を託した願いそのものです。華やかな祭事を支える長く地道な取り組みにも、古来、諏訪の人々が御柱に寄せてきた熱い思いが、脈々と受け継がれています。

諏訪大社御柱祭を体感する

諏訪地方の人々が各集落の歴史のなかで連綿と受け継いできた、深い信仰と人のつながりに彩られている御柱祭。7年1度の祭りに血をたぎらせる地域の人々の姿に垣間見える土地の神様や山の自然への愛着と畏れが、見る者の胸を打ちます。

■「御柱祭」の正式名称は
式年造営御柱大祭

全国に1万社以上あるといわれる諏訪神社の総本社、諏訪大社。その最大
 の祭礼であるおんぼしらい「御柱祭」の正式名称は「しきねんどうえいみはいらたいさい式年造宮御柱大祭」。新たに宝殿を
 造営して御霊代を移す「御遷座祭」と、社殿の四隅に巨木を建立する「御柱」
みたましろ
 の両方を指し、7年目ごととなる寅・申の年に行われます。宝殿は上社本宮
 下社春宮、下社秋宮にそれぞれ2棟ずつあり、各1棟を建て替えます。参詣
 の折は、清々しい新宝殿にも参拝したいものです。

平成28年 諏訪大社式年造営御柱大祭 日程

山出し	上社 4月2日(土)・3日(日)・4日(月) 下社 4月8日(金)・9日(土)・10日(日)
里曳き	上社 5月3日(火・祝)・4日(水・休)・5日(木・祝) 下社 5月14日(土)・15日(日)・16日(月)
宝殿遷座祭	下社 5月13日(金) 春宮にて 上社 6月15日(水) 本宮にて



下社春宮——
境内東側の急斜面でも木落しが行われる。先端を切る「冠落し」の神事を経て、「一」「四」「二」「三」の順に曳き建てる。

木落とし坂
最大斜度35度、長さ100
メートルの急坂を一気に
落下。綱が切られる瞬間
も見せ場。

棚木場
木遣りを合図にここから出発。2日に分けて出発します。

目。「神賑わい」と呼ばれる華やかな行列とともに春宮から秋宮「冠落し」の神事を経て、「一」「四」の順に曳き建てる。



上社本宮——
メドデコをはず
切る「冠落し」の
て、「二」「一」「三
に曳き建てる。

上社前宮
メドデコをはずし、先端
を切る「冠落し」の神事
を経て、「一」から「四」の
順に曳き建てる。

川越し
東えるような早春の宮川を渡る。

木落とし
御柱に人を乗せたまま
斜度27度の急坂を一
気に下る。

高島藩の騎馬行列姿や、
本宮から迎えに出る古式
ゆかしい「お舟」にも注目。



■御用材の見立てから山出し前まで

御柱祭は開催の何年も前から始まっています。上社、下社それぞれの流れと作法によって御用材が準備され、地域の人々が心をつとめる春の祭り当日を待つのです。ここでは上社を例に、流れを紹介します。

見立て

祭りの2年前(2014年9月)に仮見立て、1年前(2015年6月)に本見立てが行われ、伊那谷の入口に位置する辰野町横川国有林内で8本の御用材が決定。宮司が鳥のトサカのような形をした銅の神器「はがね薙鎌なぎかま」を幹に打ち込み、祝詞が奏上されます。薙鎌は地元の鍛冶職人ら有志の会が毎回必要な数を製作して奉納。古くは伐採の時まで木に残したといいます。



薙鎌(左)と御用材に決定した「本宮一之御柱」

伐採

祭り直前の3月に伐採するのが伝統ですが、今回は現地が標高1000メートル以上の急斜面という難条件に加え、降雪時には伐採も搬出も困難なことから、昨年9月から10月に4日間かけて行われました。「山作り衆」の当番がかみよき「神斧」を3回振り入れ、山作り衆、大総代をはじめとする氏子の手で1本に約半日をかけて伐採しました。



氏子の代表者も順番に斧を入れていく
写真提供：牛山純緒さん

仮置き

伐採された御用材は茅野市と原村の境にある
つなおきば
綱置場（曳行開始地点）に運ばれます。そこで
初めて一般の方の目に触れますが、今回は特
別に御用材を調達した横川国有林の麓にある
「かやぶきの館」敷地内に仮置き、公開されて
います。



仮置き中の御用材。3月下旬頃まで自由に見学可

御柱抽籤式

最も長く太い(幹の周囲3メートル超、長さ約17メートル、重さ約12トン)「本宮一」を筆頭に、本宮4本、前宮4本の各柱をどの地域の氏子が担当するかが、2月15日の「抽籤式」で決まります。「ふさわしい柱」を引き当てられるよう、氏子たちは精進潔斎してこの日を迎えます。

下社では

祭りの3年前(2013年5月)に仮見立て、2年前(2014年5月)に本見立てが行われ、下諏訪町東俣国有林内から8本が選定されました。伐採は1年前の昨年5月12日(1本のみ6月13日)に行われ、棚木場(たなこば)に運ばれて、約1年間の眠りを経て山出しを待ちます。担当地区は取り決めて割り当てられます。

●御柱祭に関するお問合せ
諏訪地方観光連盟 御柱祭観光情報センター
TEL 0266-58-1123 (平日9:00～17:00)
www.onbashira.jp

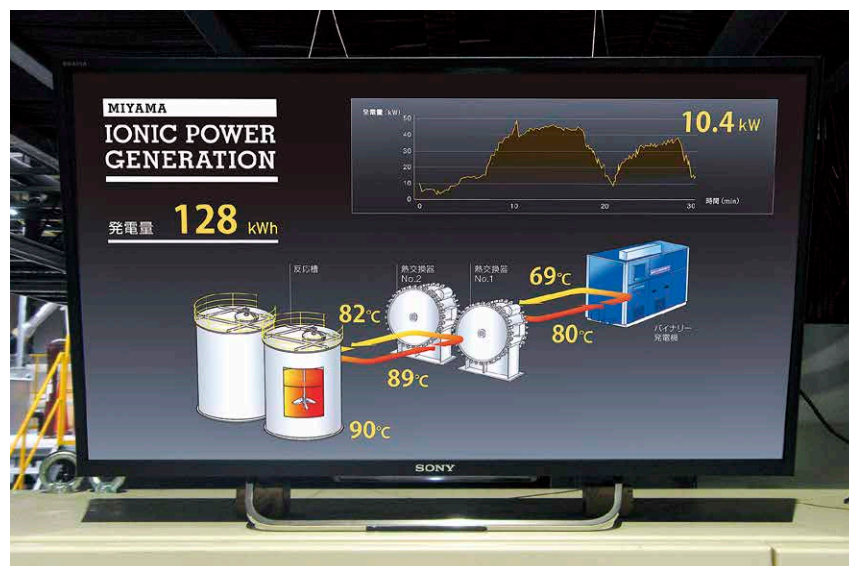
取材協力・写真提供：
諏訪大社大総代会議長 牛山純緒 氏
信濃國一之宮 諏訪大社
諏訪地方観光連盟
出版社 ポロンテ

MIYAMA information

IPG(イオニックパワージェネレーション)の対象液を拡大 硫酸系廃液を原料とした発電をスタート!

ミヤマでは2014年に化学反応熱を利用して発電を行う新技術IPGを開発。これを廃棄物処理分野に展開し、廃棄物の化学処理時に発生する熱を利用した発電を行ってきました。また、本技術では反応液を高温、高濃度にするこ

とで、廃棄物処理の工程を、廃棄物を原料とした化学製品の製造プロセスへと転換しています。
これまでIPGによる処理は硝酸系廃液を対象としてきましたが、今回、硫酸系廃液の受け入れを開始。同廃液を原料とした発電を行うことで、より多くのお客様に環境負荷の少ない廃棄物処理のご提案が可能となりました。



●対象廃液●

硫酸系の各種廃液
(酸洗廃液、ソフトエッチング廃液、アルマイト処理廃液等)

カドミウムの判定基準が 変更されます

本年3月15日より廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則が一部改正され、カドミウムの特別管理産業廃棄物に関する判定基準等が強化されます。これにより、今までは通常の産業廃棄物として扱っていたものが、特別管理産業廃棄物に該当する可能性があります。特別管理産業廃棄物に該当した場合には、処理委託契約書やマニフェストの変更、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置等、特別管理産業廃棄物としての対応が必要となりますのでご注意ください。

特別管理産業廃棄物の判定基準又は埋立処分(遮断型)の判定基準

旧基準	廃酸、廃アルカリ (含有試験)	燃えがら、ばいじん、鉍さい、 汚泥、第13号廃棄物(溶出試験)
カドミウム又はその化合物	1mg/ℓを超える	0.3mg/ℓを超える

新基準	廃酸、廃アルカリ (含有試験)	燃えがら、ばいじん、鉍さい、 汚泥、第13号廃棄物(溶出試験)
カドミウム又はその化合物	0.3mg/ℓを超える	0.09mg/ℓを超える



2016 February-March



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社／〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026-285-4166(代) FAX.026-283-0011

■リサイクルセンター／東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場／中野・上越・分水・燕・大町
■技術開発センター ■EM開発センター ■長野テクノセンター ■保全機材センター
■名古屋プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
■営業所／盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪
甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/> ミヤマ 検索

PIGEON POST #31

発行日：平成28年2月1日 発行人：南 克明 企画：ミヤマ株式会社 広報室 制作：デザインワンエイト